

令和6年度（2024年度）第4回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議

会議録

- 開催日時：令和7年（2025年）2月5日（木） 18:30～19:10
- 開催場所：函館市役所本庁舎8階第1会議室
- 出席者
委 員：齋藤委員，中野委員，岡崎委員，奥平委員，長谷川委員
（委員名簿順〔5名〕）
市 側：〔企画部〕阿部部長，渡邊室長，山口次長，木谷計画調整課長，
村上移住・人口減担当課長，上野地域デジタル課長，
村瀬主査，池田主事

.....

次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - （1）「函館市人口ビジョン（令和6年度改訂版）」（素案）〔資料1〕
 - （2）第3期函館市活性化総合戦略（素案）〔資料2～5〕
- 3 その他
- 4 閉 会

..... 1 開 会

(事務局 木谷課長)

ただ今から、令和6年度第4回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を開催する。

本会議については原則公開で行い、会議内容については、開催後に本市のホームページで公開する。

本日の会議は、都合により3名の委員が欠席しているが、委員8名中、過半数の5名の出席があることから、会議が成立することを報告する。

以降、まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱第6条第3項に基づき、奥平委員長に会議の進行をお願いする。

..... 2 議 事

(奥平委員長)

本日は、2件の議題があり、1つ目は「函館市人口ビジョン（令和6年度改訂版）」（素案）について、2つ目は第3期函館市活性化総合戦略（素案）についてである。

それでは、早速、議事（1）「函館市人口ビジョン（令和6年度改訂版）」（素案）に入る。

資料について、事務局から説明をお願いする。

(事務局 村上課長)

【 資料1 】に基づき説明

(奥平委員長)

ただ今説明のあった資料1について、質問や意見はあるか。質問等なければ、「函館市人口ビジョン（令和6年度改訂版）」（素案）については、終了したい。

続いて、議事（2）第3期函館市活性化総合戦略（素案）に入る。

資料について事務局から説明をお願いする。

(事務局 木谷課長)

【 資料2～5 】に基づき説明

(奥平委員長)

ただ今説明のあった資料2～5について、質問や意見はあるか。

(齋藤委員)

資料4の私からの意見の反映結果について、最初の2つは理解できる。3つ目の国際線の運航便数については、たしかに燃料問題、グランドハンドリングの問題があるが、すぐに来年とかというわけではないが、実は両方とも解消されつつある。先日、日経新聞にも掲載されていたが、燃料問題の一番の問題が政府である。輸入する際に国内の石油元売りを通さなければならないという、協会の既得権益に雁字

掘めになっている。ここは国が動き、少し解決されつつある。グランドハンドリングについても確かに人手は足りないが、これも1年、2年というわけではない。函館空港のキャパシティを考えても、国際線は1日に2便は十分対応できると思う。せめてコロナ禍前以上の週14便の目標設定にできないか。市長も色々取組んでいるようなので、色々なところに声を掛けていただいきたい。国際線増便での最大のネックは、航空会社の離発着料をどれだけ負担できるかというところだと思う。私は宿泊税を徴収されるようになれば、そこの分野にも充てていただくよう声をあげていきたいと考えている。

(事務局 木谷課長)

参考意見とさせていただきます。

(長谷川委員)

基本目標1で、様々な施策が書かれており、子育て、出産に関することは充実していると思うが、その前にある結婚支援に関する部分は具体的な記載がない。難しいのは理解できるが、もう少し記載していただきたかったと感じる。この会議の議論の中で、安定した雇用、職が必要だということは議論させていただいた。課税対象所得を上げていくんだという気持ちがある。ただ具体的に何をやるのかということが中にあまりない気がする。所得を上げていくということになると、企業も賃上げができるように体力つける必要があり、そこに対して行政がどのような施策をできるのかということも、記載していただきたかったと思う。そういったことが結婚ができるということにつながってくる。アンケートの中でも、安定した雇用の確保が必要だということが明らかにされ、若い方の中でも今も賃金が低い、非正規で働いたりという方がいる中で、所得が低いと婚姻率も下がるということは統計上も示されていることだと思うので、今後、具体的な施策の段階で取り入れていただきたい。

(岡崎副委員長)

転出超過について、若い女性の超過数が多いという統計のグラフが本書で示されている。男女ともに若い年齢層で転出超過が突出しているが、男女格差がある。ジェンダーギャップという発想、切り口で改善していこうとする考え方は現在の社会状況の中で、理にかなっていると思う。田村委員のご意見にあったように、アンケートを実施し、どのような動機なのかというのを解明していただきたい。

それと矛盾するかもしれないが、私の考えとしては、一度は、自分が育ったまち、あるいは自分が学んだまちを出て、違うまちの刺激を受けて、経験を深めたいと若い人が思うことは、ある意味自然なことだと思う。

地方都市の人口の獲得の仕方とすれば、ライフステージが上がる段階、たとえば都会での生活やキャリアをある程度積み、結婚したいとか、子どもが欲しい、転職したいといった次のキャリアを考える段階に至ったときに選ばれるまちを目指すべきではないかと思う。

もう少しゆったりとした環境で生活をしながら就職をしたいというような発想で選ばれる都市として、函館というまちは高い価値と可能性があると思う。移住希望

者や U ターン希望者など、年齢を重ねてニーズを抱いた人達をいかに獲得するかという視点が、函館の将来像を模索するうえで現実的な戦略として必要だと考える。そうした視点から、関係者の意見を聴き具体的な施策を進めていただきたい。

(中野委員)

私も一度若い人が函館を出て、見聞を広げ、知識、経験を持って、函館に戻って来てもらう方が良いと思う。そのために歴史、文化、スポーツと記載があるが、郷土愛をどう助長させるかということが、もっと具体的に必要かと思う。

(奥平委員長)

移住者の話が先ほどから出ているが、移住者に関する統計が市にはない。これは問題であると思う。移住者が何人来て、どういう特性かもわからないままでは、移住者は増えないと思う。その部分の統計を整備していただきたい。

今回の第3期総合戦略で重視した点としては、戦略全体で推進する視点を明確化した点、財政状況を踏まえ、事業の選択を意識した点、分野として幅広くカバーする5年間の計画では、特にしごとの分野を重視した目標および具体的な取組としたという点、それから戦略の策定がゴールではなく、本戦略をスタートして、進捗状況を確認する中で取組の効果を見極め、必要に応じて計画を柔軟に変更していきながら目標の達成を目指していく点が挙げられる。以上のことが、今回の骨子であり、行政側はこれに沿って施策を実行していくということが求められていると思う。

(齋藤委員)

意見として聞いていただきたい。20歳代の転出超過というのは、先ほど岡崎副委員長からお話があったが、やむを得ないところであると思う。ここ抑制していくのは、逆に難しいと思う。もしかすると10代の転出超過はさらに多いのではないかと考えたが、函館はまちの規模の割に大学が多いという部分があり、転出者と転入者の相殺でそこまで大きく減らないのではないかと。問題は大学を卒業する人が一度外に出てしまうことである。そういった部分を考えると、20歳代に限らず、全体として転出する割合を減らしていくと考えた方が良かったかもしれない。

(奥平委員長)

そこに関しては、私が先ほど述べた統計が大事になってくる。その部分は今後期待をしたい。統計を揃えた上で、いい年齢の方々にいかに戻ってきていただくかという施策を作って出していければ良いというところは、本日の会議の中で出てきたところかと思う。そのあたりは今後検討をいただきたい。

他に意見、質問等あるか。以上で本日の議事についての質疑は終了したい。

..... 3 そ の 他

(奥平委員長)

本日の議題は以上であるが、皆様から質問・意見はないか。

(事務局 木谷課長)

本日の会議の議事録について、とりまとめ次第、委員に確認のうえ公表予定である。また、第3期活性化総合戦略の策定に向けた会議は、今回で最後となる。この後の策定までの流れだが、内部会議における政策決定を経て、2月下旬から3月下旬にかけてパブリックコメントで市民意見を募集し、3月末に策定となる予定である。

(奥平委員長)

それでは、事務局に進行を返すこととする。

..... 4 閉 会

(事務局 木谷課長)

今回の会議が今年度最後の開催となることから、企画部長の阿部から一言、皆様にお礼を申し上げたい。

(事務局 阿部部長)

本日は欠席された委員もいらっしゃったが、奥平委員長をはじめ委員の皆様には、ご多忙のところ、第3期函館市活性化総合戦略の策定のための会議へのご参加や、意見のご提供をいただき、感謝申し上げます。おかげをもちまして、素案がまとめられたので、3月末の策定に向けて手続きを進めていきたい。

(事務局 木谷課長)

これをもって、令和6年度第4回函館市まち・ひと・しごと創生推進会議を終了する。

以上